

第2回北九州市スポーツ推進計画策定検討会 会議録

| | |
|----------------|--|
| 開催日時 | 令和6年8月23日（金） （午前 午後 2時30分 開会 （午前 午後 4時30分 閉会 |
| 開催場所 | 北九州市役所3階特別会議室A |
| 出席委員 （◎：座長） | 有延 忠剛 （北九州市障害者スポーツセンターアレアス所長） 池元 友樹 （北九州市スポーツ大使） 倉崎 信子 （九州栄養福祉大学教授） ※園田 美恵子 （公益財団法人北九州市スポーツ協会事業係長） 花内 誠 （九州産業大学教授） ◎船津 京太郎 （九州共立大学教授） 松崎 淳 （九州共立大学講師） ※：久澄委員（欠席）の代理 |
| 欠席委員 | 梶山 幹子（北九州市小学校体育連盟） 久澄 喜裕（公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長） |
| 事務局 | 都市ブランド創造局 スポーツ部 部長 濱田 スポーツ振興課 課長 大江 スポーツ施設担当 課長 川合 スポーツコミッション担当 課長 三輪 企画係 係長 末永 係員 梶谷 |
| 開催形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 / <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 議題 | 北九州市スポーツ推進計画素案等に関する意見交換 |
| 配布資料 | ○ 第2回北九州市スポーツ推進計画策定検討会次第 ○ 北九州市スポーツ推進計画策定検討会委員名簿 ○ 北九州市スポーツ推進計画策定検討会配席表 ○ 資料1 全体スケジュールについて ○ 資料2 第1回検討会における主な意見と対応方針について ○ 資料3 北九州市スポーツ推進計画の骨子 ○ 資料4 北九州市スポーツ推進計画の素案 |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|------|---|
| 事務局 | <p>■開会</p> <p>本日欠席の梶山委員の意見については会議後別途意見を聞き、素案に反映したい。ここからの進行は船津座長に一任する。</p> |
| 船津座長 | 事務局より配布資料の説明をお願いします。 |
| 事務局 | <p>■北九州市スポーツ推進計画の素案等について</p> <p>【資料1、資料2、資料3、資料4に基づいて説明】</p> |
| 船津座長 | <p>今回の検討会では、骨子及び骨子をもとに策定された新計画の素案に関する意見を求める。まずは第1回検討会の意見がこの骨子もしくは素案にどのような形で反映されているか確認のうえ、意見をいただきたい。</p> <p>まず花内委員からの「稼ぐ」というベクトルに関する質問と対応方針について感想等いただきたい。</p> |
| 花内委員 | <p>「稼ぐ」というベクトルは方針Ⅰに深く関わる点である。市のビジョンに稼げるまちの定義として、市内企業の売上げアップと企業の創出と示されていた。その文言をこの中で説明すれば、誤解が生じず、ビジョンと推進計画の関連がより明確になるのではないか。</p> |
| 事務局 | 内部の協議においても、稼ぐとはどういうことか説明する必要があるのでは、との意見が出ていた。どのような形で示せるか検討したい。 |
| 船津座長 | 花内委員からのもう一つのプロスポーツチームに関する意見についてはどうか。 |
| 花内委員 | <p>プロスポーツは方針Ⅰを中心に記載されているが、方針ⅡやⅢの中にもプロスポーツチームの関与を示せるとよい。方針Ⅱの中に「市ゆかりのスポーツチーム・アスリートが」などの記載はあるが、プロスポーツチームの関与を明確に書いたほうがよりわかりやすいと思われる。前回、いわゆるエンターテインメントスポーツとしてのギラヴァンツ北九州（以下「ギラヴァンツ」）ではなく、市民スポーツとしてのギラヴァンツとしてこれから部活動の地域移行などでも手伝いたいとの発言があった。そのようなことが、方針Ⅱ・Ⅲに反映されると、より循環の図が明確になるのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>前回の意見を参考に例えば15ページ（4）などにも記載しているが、子どもとプロスポーツチームの関わりなどを随所に入れている。ギラヴァンツが子どもたちのスポーツをするきっかけづくりからトップアスリートを目指す子どもなど様々なレベル感の子どもたちに向けて指導などしていることはよく把握している。実際に事業的にもしっかり継続していきたいと考えており、その部分を含めた記載だと理解いただきたい。</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|------|--|
| 花内委員 | <p>計画素案5ページ「プロスポーツコンテンツが多彩な都市環境」にギラヴァンツ北九州やライジングゼファーフクオカなど7つのチームが挙げられているが、「稼げるまち」の骨子からすると、本社が北九州にあり、北九州をホームとしているチームと、ライジングやソフトバンクホークスとは少し差をつけておいたほうがよいのではないかと。もちろん様々なイベント等をしたことはあるだろうが、稼げるまちの定義からすると、ギラヴァンツを中心にするほうがよいのではないかと。他は本拠地を北九州にしきれてないチームが幾つかある。線引きが難しいところではあるがそこが鍵かと思う。</p> |
| 事務局 | <p>7つのうち、ギラヴァンツ北九州、ボルクバレット北九州、北九州下関フェニックス、タカギ北九州ウォーターウェーブの4つは完全に北九州が拠点となってるチームであり、市で連絡会議を作り社会貢献的な取組やPRなどもしっかりやっており、我々も地元のチームであるとの位置付けで対応しているため、それらをまた伸ばしていければと考えている。</p> <p>その差別化をうまくこの中で表現できるかの問題はありますが、個別の事業や取組として現実に実施している部分もあることを理解いただきたい。</p> |
| 船津座長 | <p>目標に関する質問について「素案の中で、計画の成果指標について定めていきたい」との対応方針についてはどうか。</p> |
| 有延委員 | <p>今回の骨子で目標4つが一番大きなところの目標として挙げられ、一つの具体的な数値として表現できているのは非常によいと思う。前回委員会で発言したのは、今回の推進計画は前回の計画とは異なり、1つずつの事業について細かく決めるのではなく、ざっくりと大きな計画を策定することであり、それが絵に描いた餅にならないようにするためには、どのような物差しで表現していくのかイメージがもう少し湧くとよいのでは、ということが意図としてあった。</p> |
| 事務局 | <p>最終的に大きな目標を設定しているが、これらの目標を達成していくために必要な個別の事業・取組があり、目標値と評価を個別にしっかり把握しながら事業を進める。</p> |
| 船津座長 | <p>方針Iに関し「スポーツの意義と市が抱える課題へのアプローチを第一とし、稼ぐ視点のトーンを落としたほうが良いのではないかと」との意見に対する対応方針についてはどうか。</p> |
| 有延委員 | <p>花内委員から出された先のやりとりでここについては解決されている。</p> |
| 船津座長 | <p>同じく有延委員からの「都市ブランドの向上においてパラスポーツ・障害者スポーツに関連することが醸し出されるとよい。ユニバーサルスポーツ×都市ブランド向上の絵姿が見えるとよい」に関してはどうか。</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|------|--|
| 有延委員 | 施策1「③大規模国際スポーツ大会等の誘致・開催支援」の中に国際車いすバスケット大会は含まれているか。 |
| 事務局 | 大まかにイメージとしては含んでいると認識してもらいたい。 |
| 有延委員 | <p>承知した。国際車いすバスケットも今年で21回目になるが、北九州市関係者からはいつまでやるのか、まだやっているのかなどの声を聞くこともある。一方、大分の国際車いすマラソンや飯塚の国際車いすテニスは全く逆で、地元の貴重なスポーツイベントとして誇りを持って対応されている。それらと北九州の国際車いすバスケの違いは何なのかといつも自問自答しながら大会に携わっている。</p> <p>東京パラリンピックが終わり、レガシーとは何かとの話がよく出る。東京の企業からは国際車いすバスケの大会や並行して行う小学生大会などの取組が非常に素晴らしいとかなり注目を浴びており、外からの評価が高まっている。是非チャンピオンズカップを忘れずこの中に含め、北九州市のブランドとして仲間に入れてもらいたい。</p> |
| 事務局 | 先日、アレアスにボッチャの大会を観に行った際、協会の会長等から学校現場で国際車いすバスケの大会と並行して行う小学生大会などの取組がされていることを聞いた。我々としてはインクルーシブスポーツの観点重要視しており、それらを踏まえた計画となっている。国際車いすバスケットなどもしっかり念頭に置き、計画を策定していくと認識してもらいたい。 |
| 船津座長 | 倉崎委員からの「卒業後は福岡市に行ってしまうと北九州市にとどまる学生が少ない。北九州市の魅力を発信できるような取組があると」の意見についてはどうか。 |
| 倉崎委員 | 都市の魅力を高める情報発信のところでしっかり記載していただいた。北九州マラソンが本学の前を走ることもあり、我々も地域連携の形でサポートしていきたい。そして、学生時代にそのような経験があると、学生が第二の故郷として北九州市に残る可能性もあると思われる。 |
| 船津座長 | <p>園田委員からの「イベントで北九州を訪れた人が北九州市にそのまま滞在いただけるようなツーリズム強化が必要」との意見に対しても素案の中で反映するとのことである。</p> <p>「興行ニーズに対応した開催環境づくりについては具体言及必要」「大会を開催する場合、駐車場収容が大きな課題」に対する対応はどうか。</p> |
| 園田委員 | <p>1点目については強化が必要という点を素案の中にすべて落とし込んで表現するのは難しいと思うので、記載の範囲の中で、一つずつクリアしてもらえるとよい。</p> <p>2点目は意味が分からなかったため質問したところ、素案の中に記載さ</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|-------------|---|
| 園田委員 (続) | れており、理解できた。 3点目は課題解決を目指して取り組んでもらえるとよい。 |
| 船津座長 | 続いて松崎委員より3点意見が出されているがどうか。 |
| 松崎委員 | 「国際」のキーワードについて、北九州市のこれまでの国際スポーツイベントの開催実績を踏まえると、さらに国際性について計画の中に盛り込んだほうがよいとの指摘を踏まえ、「まちづくりの観点から国際性のキーワードを踏まえた表現とする」とのことで、計画に反映されており、こちらに関しては十分対応されている。 |
| 船津座長 | 続いて方針Ⅱに関し、本日欠席の梶山委員からの「学校として地域のスポーツに受け皿として応えていきたい」について事務局としてどうか。 |
| 事務局 | 記載は16ページ、方針Ⅱ施策3(2)学校体育施設の有効活用になる。ニーズに対し学校が受け皿として応えていきたいものの、学校教育に支障が出てはいけないので、記載としては、支障のない範囲で有効活用する、との表現で盛り込んでいる。 |
| 船津座長 | 続いて倉崎委員からの「学校施設の有効活用促進は有効活用の側面である」と課題あり」についてはどこに反映されているか。 |
| 事務局 | 先ほどと同じ項目になる。やはり全て開放というわけにはいかないため、利用者のニーズと学校側の都合とうまくバランスを取りながら進めるしかない。 |
| 花内委員 | スポーツ実施率の問題もあるなか、どこでスポーツをするかの質問に対し「学校内の運動場や体育館、武道場」の回答が4.4%しかない。おそらく北九州は企業の運動場の数が他都市に比べて多いため、学校施設の占める割合がやや低くなるが、日本全体では3分の2程度は学校施設でスポーツが実施されているなか4%しか学校でスポーツをしていないのは余りにバランスを欠く状態であるとの認識を教育委員会含め持たなければ今後実施率は伸びないのではないか。今後、施策の部分でかなり重点的にプッシュしなければならないのではと考える。 |
| 事務局 | この調査が18歳以上の成人対象であり、学校施設の利用率は低くなる。学校施設を利用したスポーツは子どもたちのクラブ活動や少年団などのスポーツ活動が中心なることが大前提にあるため、数字が上がらない現状は伺える。実態として、ソフトボールとサッカーなどのスポーツ少年団が週末は利用している状態である。今はバスケットやバドミントンなど子どもたちの選べるスポーツが増えており、学校が非常に活用されている部分もあるが、このアンケートには反映されてない。今後はそのような状況を可 |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|--------------|--|
| 事務局 (続) | 視化することも必要かなと思う。 |
| 花内委員 | <p>スポーツで稼げるまちについて、地元プロスポーツチームがファンを作っていくことが最初のポイントになるが、チーム側がそこに資金を投資する余裕がない。ギラヴァンツのみならず、日本中の各スポーツチームとファンをつなげていくのがスポーツで稼げるまちの出発点のはずである。先ほどの少年サッカーの話とギラヴァンツの話とをうまく行政側がリンクさせると、ギラヴァンツが余計な投資をしなくてもファンが広がっていき、ソフトボールしかり、野球しかり、各種目しかりとなるように思う。産学官連携がうまくできればと思うので、その視点を加えてもらえるとよい。</p> |
| 事務局 | <p>ギラヴァンツはスクールを複数運営し、学校訪問事業なども実施しているが、それ以外のチームは我々としてサポートしている部分もあるものの、どうしても単発に終わってしまう。単独で実施されるものもあるが、頻度的には多くない。</p> |
| 花内委員 | <p>パラスポーツにしてもギラヴァンツの元選手が車いすバスケットのイベントに参加するだけで子どもたちの見る目が変わるのではないか。ただ単に子どもたちに車いすバスケケットをしよう、というだけでは、せっかく北九州市が持つギラヴァンツという資産をパラスポーツで利用できていない。選手が無理なら元選手が子どもたちと一緒にパラスポーツを経験してあげるようなことができると、ギラヴァンツにとってはファンが増え、パラスポーツの理解も進み、子どもたちの興味も生まれ、まさに循環が生じるのではないか。そのような形でいくつかの事業が進むことを楽しみにしている。</p> |
| 船津座長 | <p>今の意見は非常に重要なことである。それは盛り込んでもらえるか。骨子に個別具体は書けないが、一文でもどこかに花内委員の視点を記載できるとよい。</p> |
| 事務局 | <p>非常に重要な視点であり、計画に盛り込むことに加え、今後様々な事業を実施するうえで参考となる話である。</p> <p>この場は計画作りの意見を聞く場でもあるが、市民でもありスポーツの知見ある委員方がスポーツに対しどのような思いがあるかダイレクトに聞ける非常に重要な場であり、今のような意見は今後の事業に生かしていける要素が多くあると考える。</p> |
| 船津座長 | <p>続いて駐車場のオープンスペースに関する質問についてはどうか。</p> |
| 松崎委員 | <p>資料3の骨子においてオープンスペースの言葉は直接触れられていない一方、資料4の17ページ「(4)公園など身近な運動の場の提供」にお</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|---------------|---|
| 松崎委員 (続) | <p>いては、オープンスペースの言葉を含んだ具体的な説明がなされている。また38ページの用語集においても、丁寧にオープンスペースを含めてもらっている。</p> <p>用語集のオープンスペースの定義は「壁や仕切りが少ない開放的な空間のこと」とあるが、具体的なイメージが連想しにくいと感じた。スポーツ庁の資料には「公園、歩行空間、広場等のオープンスペース」という表記があり、用語集の説明を一部修正してもらえるとありがたい。</p> |
| 船津座長 | <p>松崎委員からのインクルーシブスポーツについては、すべてインクルーシブスポーツで記載を統一されるとのことである。</p> <p>続いて方針Ⅲ、有延委員の「パラスポーツなど、読んだときに想起できるような表現にできないか。施策5の①に「パラスポーツ指導者」の点も追加してほしい」との意見についてはどうか。</p> |
| 有延委員 | <p>反映していただき、感謝する。</p> |
| 船津座長 | <p>続いて梶山委員からの「子どもにとっては観る機会も重要で、車いすバスケや世界体操等、アスリートと触れ合うギラヴァンツ北九州等との接点は子どもにとって良い機会」についてはどうか。</p> |
| 事務局 | <p>素案18ページ(2)で「また、プロスポーツチーム等の試合や大規模国際スポーツ大会等の観戦により、子どもたちが本物のスポーツにアクセスする機会を提供します」として記載している。</p> |
| 船津座長 | <p>梶山委員からの「学生が子どもたちと一緒に遊ぶことで体力の向上につながるという研究もある」との意見については19ページ(3)になる。ここには自分も触れた部分でもあり、私としては、学生の育成は当然していくが、学生のみでなく地域の指導者の育成の場にしてはどうかとの認識であった。例えば、仕事を持つ人が大学で勉強し、大学独自の資格を出すことなどをイメージしていた。そのような内容は育成の場の拡充に含まれるか。学生を教育するのは当然のことなので、地域の人たちの学びの場になることのほうが重要ではないか。</p> |
| 事務局 | <p>もう少し具体的な表現が必要であれば、わかりやすいよう工夫したい。地域スポーツを支える人材として、学生だけでなく地域の人材、のように具体的表現ができるとよい。</p> <p>実際にそのような公開講座やリカレント的な講座など、受け皿はあるか。</p> |
| 船津座長 | <p>大阪体育大学など、大学の所有するスポーツ資源の活用事業でスポーツ庁が補助金を出しており、大学の人材を使って地域の指導者を育成するために個別のプログラムを作り、修了書を発行し、大学独自の資格を出して地域に送り込む取組が進められている。九州共立大学も検討してはいるもののまだ見送っている状況である。これは行政と一体となって取り組むこ</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|-------------|---|
| 船津座長 (続) | <p>とが条件になっている。大学独自では進められないことであり、行政と一体になり進めていく事業になる。大学としてはそのような取組をしたいと考えている。もちろんリカレントや生涯学習などでも展開は可能かと思うが、プログラムを作ることが最も望ましいと思われるため、検討してもらいたい。</p> <p>続いて倉崎委員より「中高生や大学生もプロスポーツチームとの触れ合いの場があるとよい」の意見について、「素案の中で、プロスポーツチームと大学などとの連携に関する視点を踏まえた表現とする」との方針である。</p> |
| 倉崎委員 | <p>19 ページの一番下あたりの記載で反映されている。</p> |
| 船津座長 | <p>続いて「方針Ⅲに書いてある内容に目新しさがない」は学校関連のことだったかと思うが、可能であればぜひ検討してもらいたい。</p> <p>ここまでが前回出された意見の反映結果についての検証であった。</p> <p>続いて素案について協議を行う。施策1から、文章表現や内容、構成について、順番に意見を聞きたい。</p> |
| 松崎委員 | <p>資料3右上に「方針Ⅰ・方針Ⅱ・方針Ⅲが連動し、各施策に取り組むことで、スポーツで「まちが成長」の好循環につなげます」との表記がある。具体的な内容の9ページにも同様の記載があるが、若干文言に相違が生じている。何か意図があって文言を変えているか。</p> |
| 事務局 | <p>9 ページの表記が正解である。文言を統一する。</p> |
| 松崎委員 | <p>資料3の目標に「スポーツ実施率70%」とあるが、週に1回以上のスポーツ実施率の認識でよいか。</p> <p>目標4つについて、令和11年度、令和10年度それぞれ目標が立てられているが、現状値を示したうえで目標値を示したほうが、どの程度達成しなければならないかわかりやすいのではと感じた。</p> |
| 事務局 | <p>スポーツ実施率は週に1日以上スポーツする市民の割合である。</p> <p>素案の20ページにはそれぞれの最新値である令和4年度の数値を掲載している。骨子にも記載したほうがわかりやすいと思われるので、意見を参考にしたい。</p> |
| 松崎委員 | <p>12 ページ「方針Ⅰ スポーツでまちの魅力にアクセス」では「大規模国際スポーツ大会」「国際スポーツ大会」「大規模なスポーツイベント」などの表記が多くある。スポーツ庁や福岡県のスポーツ振興計画も参照したが、表記を統一したほうがよいのではないか。意味合いが違うのであれば分けたほうがよいが、もし示す内容が一緒であれば表記に一貫性を持たせたほうがよい。</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|------|--|
| 事務局 | 大規模国際スポーツ大会“等”と書いてあり、国内の大規模大会なども含む意味合いがある。文言を揃え、意図がある部分については説明できるようにしたい。 |
| 花内委員 | 骨子のほうで、考え方は「一歩先を見据えた新たなスポーツコンテンツを創出し、」のところについて、既存のものを利用するものもこの中に含まれているとの理解でよいか。 |
| 事務局 | そのとおり。それをまたブラッシュアップして、という部分を含めてである。 |
| 花内委員 | また「(1) 観るスポーツの機会充実」「(6) 市ゆかりのプロスポーツチーム等・アスリートの応援機運の醸成」と「(8) プロスポーツチーム等との連携による地域活性化」などいくつか重複するものがあるが、これは重複なのか、それとも意図的に分けているか。 |
| 事務局 | 我々がこれまで取り組んできた事業などをある程度意識しながら差別化している。 |
| 園田委員 | 9ページの図で円の大きさが違うことに意図はあるか。 13ページ「(5) 都市の魅力を高めるスポーツの振興」の「北九州市に優位性のあるブレイキンやパルクール等のアーバンスポーツなどを戦略的に振興する」とは、北九州市で定期的に何らかを開催するか、場所があるかなど、どのような意味か。 |
| 事務局 | 9ページの図については、別の資料から転用したために大きさが違ってしまっただけが統一する。 「戦略的に」の部分については、我々としてもしっかり重点を置き、ストーリーを作りながら振興していきたいとの思いである。具体的には、昨年開催されたブレイキン大会の後継大会などもそのあと続いており、パルクールの大会時にもブレイキンを中心としたアーバンスポーツを周囲で行うなどした。来年度以降それらから派生した後継事業も実施していきたい。 日経の新聞記事で市長としても「アーバンスポーツの聖地」のような表現で意気込みを語っていたこともあり、我々としてもしっかり注力していきたいとの思いを込めている。我々が考えているだけでなく、地域にもそういったスポーツ関連団体が育ってきている。先日もスケートボード団体などとコミュニケーションを取っており、今後それらの団体と行政が距離を近づけ取組を進めていきたい。 |
| 園田委員 | ブレイキンはオリンピック種目にもあり、パルクールやスケートボードなどを推進することはイコール「する場所がある」ことにもつながっていくと思う。北九州市はそれらスポーツのできる場所が少なく、総合体育館や他の施設など、やってはいけない場所でスケボーなどをしていて注意す |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|-------------|---|
| 園田委員 (続) | <p>ることある。やはり彼らには場所がないとの話を聞く。戦略的に進めていくと書くと、施設もできていくと捉えられるのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>当然、ソフトだけでなく、ハードのこともある程度意識としては持つておく必要がある。それも含めて「戦略的に」としている。</p> |
| 船津座長 | <p>自分の大学では手すりなどでスケボーをする者が出て問題となり、やっではいけない場所でやらせるよりも作ってあげたほうがよい、との考えで3年ほど前に大学が場所を作った。結果、騒音やタバコなどまた別問題が出てきてはいるが。アーバンスポーツを振興するのであればハードの話は欠かせない。</p> |
| 事務局 | <p>ぜひ近々見学させてもらいたい。</p> |
| 倉崎委員 | <p>先ほどの図の歯車の大きさが気になっていた。方針Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで連動してプラスに作用するとのことで、Ⅰから少しずつ大きくなっていくのだろうと思っていた。</p> |
| 事務局 | <p>一つずつの歯車は同じ大きさではあるが、ずっと回っていることにより全体の領域が拡大していくと捉えてもらってよい。</p> |
| 池元委員 | <p>33ページ「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、子供たちが運動やスポーツから離れている現状かとは思いますが、小中学校の結果が令和4年との比較で向上しているが、その理由はわかるか。</p> |
| 事務局 | <p>教育委員会がこの結果を公表した際の考察には「体育好きっちゃプログラムの活用や学びチャレンジリーディング校の公開授業等により、体育の授業改善に取り組んできた成果が表れている。引き続き保健体育が楽しい、運動が好きという子どもの育成を目指した授業改善に取り組み、体力の向上を図る」とある。教育委員会で取り組んだ体育関連プログラムなどの効果が少し出ているのではないか、との考察である。</p> |
| 池元委員 | <p>姉妹都市であるインチョンにあるプロサッカークラブとの交流試合を以前に行ったことがあったが今はおそらくできていない。姉妹都市との交流は今後できるか。トップの選手だけでなく、アカデミーの選手、高校生、中学生などの交流がサッカー界では増えており、海外クラブとの提携などが進んでいる状況である。我々クラブ間で行うことがほとんどではあるが、市も連携して進められる施策ができれば、よりたくさんの方が交流でき、韓国の方が北九州に来る流れができるなどしてよいのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>野球では例えば王貞治氏とハンク・アーロン氏の提唱する世界少年野球大会もある。</p> <p>以前、教育委員会体育課にいたとき、ギラヴァンツ前身のニューウェー</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|--------------|---|
| 事務局 (続) | <p>ブ北九州が韓国鉄道と対戦する企画があり、韓国から選手団を招き国際交流した。ただ単に試合するだけでなく、様々な場所を巡り食事や観光を楽しんだ。子どもたちでは、環航海の韓国、中国、日本の8都市で様々なスポーツ交流をしていた実績もある。グローバルな世の中になってきており、ただ単にスポーツ大会、トップレベルの競技スポーツ大会でなく、近隣諸国との交流などの観点での国際スポーツ大会が今後出てくるとも考えられるため、今の意見は忘れないように書いておきたい。</p> |
| 池元委員 | <p>さきほど花内委員からも話があったように、部活動などの交流もクラブだけでは動けない部分がたくさんあるので、支援してもらえるとよい。学校と協力し合って指導者を送り込み、子どもたちの指導や、指導者の指導など、プロの指導者だからこそ行えることが多くある。指導者を教える機会はなかなかないので、そのような機会は非常に大きい。良い循環はたくさんあるので、ぜひそういった機会をつくっていききたい。</p> <p>子どもたちもサッカーといえば仕事はサッカー選手か監督しか知識の中にないだろうが、サッカーに関わる仕事は非常に多くある。サッカー選手にはなれなかったがサッカーに関わる仕事を目指すこともできる、というような情報の発信なども行えるとよい。クラブが動き出す必要はあるが、市と共に進めていけることがあればと思う。</p> |
| 花内委員 | <p>ギラヴァンツがファンを増やす場合、サッカーファンではなくギラヴァンツのファンであればよいので、サッカー以外のイベントに是非人を出してもらいたい。ただし、ボランティアで出すことになると、チームの活力が下がってしまいうので、できればそこに「稼げる」ところをプラスしたい。市の問題解決に役立てるという施策が「施策1(8)プロスポーツチーム等との連携による地域活性化」にあったが、こういう市からの援助やスポンサーからの費用を取れる形を作っていくのが稼げるまちの具体例になるのではないかと。</p> <p>北九州で水素燃料の船のプロジェクトが進められていると聞くが、「スポーツで稼ぐ」を謳うのであれば、それをカーボンニュートラルで済ませるのではなく、例えば「カーボンニュートラル体操」のようなものをつくってギラヴァンツと展開するようなことが、具体的にスポーツで稼げるまちにつながっていくのだろうと想像している。そうして企業やまちの諸問題と、チームや行政とのつながりが北九州で増えていくと実装化されるのではないかと。</p> |
| 有延委員 | <p>現計画が「北九州市スポーツ振興計画」で今回が「スポーツ推進計画」の違いは何か。</p> |
| 事務局 | <p>振興と推進には「振興する」と「推し進める」ことの違いもあるが、国や県も「推進」を特に最近使っているため、我々も合わせている。平成23年にできた現計画は「振興計画」としてきたが、次の計画は推し進めていく計画として「推進計画」としている。</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|------|--|
| 有延委員 | <p>もう一点、可能であれば検討してもらいたいことがある。20ページにスポーツ実施率の目標70%と記載がある。スポーツ庁の第3期スポーツ基本計画で打ち出されている目標には、スポーツ実施率70%と併せて障害者のスポーツ実施率も40%以上とされており、できれば北九州の計画の中でも盛り込んでもらえるとありがたい。実施率について調査を行うにあたっては保健福祉局との連携も必要になると思われる。保健福祉局も障害者支援計画の中でアンケート調査を実施しており、スポーツレクリエーションに関する項目はあったものの、実施率の数値があったかは明確に認識していない。</p> |
| 事務局 | <p>保健福祉局含め、確認と検討を行いたい。</p> |
| 船津座長 | <p>15ページ「施策2 市民のスポーツ活動の推進」「(3) スポーツを通じた健康増進」に「スポーツの主要な価値の一つである健康増進に資するため、市民がそれぞれのライフスタイルにおいて特に問題意識をもつ、基礎体力向上、免疫力強化、生活習慣病予防などといった目的に応じたスポーツ活動を推進します」とある。我々の年齢になるとこれらを目的とすることも出てくるだろうが、若い人などのスポーツをする理由としては、満足感や達成感のほうが大きいように思われる。満足感、達成感、高揚感などの言葉を使ったほうがより万人に当てはまるのではないか。その結果、健康増進につながる、のような表現を検討してもらえないか。</p> |
| 事務局 | <p>2ページ「スポーツの価値・効果」にスポーツの価値や効果として、スポーツを通じた達成感や爽快感、ストレス解消や精神的充実などを列挙している。それらに繋がるような内容もあってしかるべきであり、表現等検討したい。</p> |
| 船津座長 | <p>言い方は悪いが、この表現は古いように感じる。健康だけを目的にスポーツはしないと思われる。例えば、達成感を得るためにスポーツをしている人もいる。スポーツの価値が非常に多様化しているため、表現を検討してもらいたい。「QOL」などのキーワードも使ってもらえるとよいのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>指摘の部分は項目の名称も「健康増進」としか書いてないため、表現を変更する場合、タイトルも修正する必要がある。たしかにQOLを高めるのが最も重要な部分である。</p> |
| 松崎委員 | <p>資料4の冒頭「写真／イラスト等」にはどのようなものが入る予定か。 スポーツで稼げるまちの実現というビジョンがやはり強調すべきポイントかと思う。「目指す姿」として「市民誰もが」から「まちの成長を目指す」までの4行がこの計画の目指すべきポイントであり、「スポーツで稼げるまち」がどういうことか一目でわかるとよい。北九州市内にあるプロ</p> |

議 事 の 経 過

| 発言者 | 議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項 |
|-------------|---|
| 松崎委員 (続) | スポーツチームや学校、今回新しく入ったオープンスペースなどが有機複合的に組み合わさりながら、スポーツで稼げるまちとは何か、一目でわかるような絵が示せるよう、検討してもらいたい。 |
| 事務局 | ご意見も含めて、検討したい。 |
| 船津座長 | 今回の議論を踏まえ、計画の素案を修正し、10月より市民から広く意見を求めるパブリックコメントを実施する。次回の検討会では市民の意見を反映した最終案を確認する予定である。 |
| 事務局 | <p>次回検討会は11月下旬の開催を予定している。日程は後日調整したい。</p> <p>本日出された様々な意見を踏まえ、必要に応じて素案の修正を行うが、状況により個別に連絡をする場合がある。</p> <p style="text-align: right;">(以上、閉会)</p> |

会議後、梶山委員聴き取り事項

- 施策3「気軽にスポーツに親しめる場の充実」においては、学校体育施設の有効活用のみならず、企業や大学等の施設の活用も含めた視点が重要であると考え。
→施策3（5）産学官連携によるスポーツ環境の創出にて、企業や大学等の施設の活用の検討について記載している。
- 高齢者がいつまでも元気なことは重要。そのためには、市民が気軽に運動・スポーツに触れる機会づくりが必要であると考え。
→施策2（1）市民のスポーツ活動の参加や観る機会の創出・充実、（5）インクルーシブスポーツ（障害のある人などのスポーツ活動）の推進にて、高齢者の運動・スポーツに触れる機会づくりについて記載している。